

金日成主席の崇高な教えと深い愛情

チュチェ思想国際研究所事務局長
尾上 健一

2022年4月15日は金日成主席誕生110周年にあたります。

金日成主席の誕生日を迎える度に、私は金日成主席の接見を受け、金日成主席から多くの重要な教えと愛情をいただいたことを思い起こします。

自国人民を愛し自国に根ざしてたたかった金日成主席

革命闘争において、領袖の果たす役割は決定的です。革命は領袖によって時代の要求を反映して実現し、発展していきます。

マルクスは19世紀中葉に、マルクス主義を創始して社会主義理論を空想から科学へ転換し、労働者階級の解放とその運命開拓に歴史的に寄与しました。

レーニンは20世紀初頭、『帝国主義論』を著し、ロシアで社会主義革命を史上初めて勝利させました。

金日成主席は、日本の植民地下において名前も奪われ、収奪の限りをつくされて生活していくことさえ困難な境遇にあった朝鮮人民に解放をもたらしました。

また、誕生まもない朝鮮を崩壊させようと襲いかかってきた帝国主義勢力の圧倒的な武力攻撃も跳ね返し、自主独立国家を築きました。

金日成主席の賢明な導きのもと、朝鮮人民は一丸となってたたかい、日本と米国という二大帝国主義に勝利したことにより、自主時代の幕が開いたと言えます。米帝国主義は下り坂を歩み、世界は自主性に目覚めた民衆が自己の運命をきり拓く新しい時代を迎えました。

金日成主席は、抗日革命闘争の過程でチュチェ思想を創始し、チュチェ思想にもとづいて革命と建設をすすめていきました。

チュチェ思想によって、人間の世界における地位と役割が解明され、人類は目的意識的に自己の運命を開拓することが可能となりました。

金日成主席はチュチェの社会主義国を朝鮮に建設したばかりではなく、自国の模範をもって自主平和の運動を先導し、世界の人々を励ましていきました。

私が1975年4月16日、金日成主席の接見を初めて受けたとき、金日成主席はすでに朝鮮人民を解放して民衆中心の社会主義を建設し、国家の最高指導者の地位にありました。しかし、金日成主席は、世界人民の自主偉業ははまだ完成していない、理論的にも実践的にも今後なすべき課題が多くあると次のように述べました。

“私たちは、今後もっと闘争もしなければならぬし、経験も積まなければならず、理論も豊富にしていかなければなりません。いま私たちがおこなっている

る事業は正しく、前途ある有望な仕事です。この仕事に大きな誇りをもつべきです。”

“あなたたちもみんな自主時代に生きているのですから、この時代的潮流にそうようすべての人を諭し、彼らが自主性のためにたたかうよう、同志とともに努力していきましょう。一点の火花が燎原の炎となって燃え広がるように、チュチェ思想は今後大きく燃え上がることができるでしょう。われわれもいまこの闘いを始めたばかりです。これが大きくなっていくことを信じます。”

金日成主席はこのように自主時代に生きる同志として生死苦楽を共にし、互いに努力していくよう励まされました。

また、金日成主席はチュチェ思想を研究普及し、具現していく活動を通して、人民の自覚を高め、自主性擁護の道に導いていくことが全人類のために寄与することになると言及されました。

金日成主席は革命を最終的に勝利させるために後継者を育てた

革命偉業は人民の自主性を完全に実現して共産主義を建設し、世界革命が勝利するまで遂行されなければなりません。それゆえ革命偉業は一代で完遂することはなく、長期性を帯びていきます。革命偉業は代を継いで継承してこそ、完遂されます。

金日成主席は後継者をりっぱに育てたことにより、人類に革命の最終的勝利の担保を与えてくださいました。

1987年1月19日、金日成主席の接見をうけた際、私は主席があまりにも身近に感じられたので、失礼だとは思いつつも、金正日総書記はどのような方が教えてくださいと質問しました。

すると金日成主席は、金正日総書記は謙虚であるため、父がおこなう対外活動の場には出ようとしませんと言われました。

続いて主席は、中国の故事を紹介しながら、後生可畏という孔子の話をしてくれました。

“中国が7つの国に分かれていたとき、子どもが道の真ん中で土をつかって城をつくっていました。孔子は車に乗って行きながら道をあけろと言いました。すると子どもは昔から車が城を避けるのだ、城が車を避けたことはないと言いました。それが当たっていたので孔子は驚きました。

孔子はお前の村には人々がどれぐらい住んでいるのかと聞きました。しかし、子どもは村人の数を知りませんでした。すると子どもは孔子にあなたの眉毛は何本ありますかと聞きました。孔子は答えられませんでした。子どもはあなたが目の上に生えている眉毛の数も知らないのに、どうして私が村人の数を知ることがあるかと言いました。そのとき孔子は、後生可畏という言葉を使いましたが、これは後から生まれてきた者がもっと素晴らしいという意味です。”

金日成主席は金正日総書記と新しい世代にたいする絶対的な信頼をこのような形で表現したのです。

私は金日成主席に金正日総書記の著作を外国で出版できるようにしてほしいとお願いしました。金日成主席はその希望を聞き入れ、以来、金正日総書記の著作が出版され、世界の人々はチュチェ思想をいっそう深く研究できるようになりました。日本のチュチェ思想研究者は各地にキムジョンイル著作研究会を結成した活動の成果をもって、1994年2月5日、キムジョンイル著作研究会全国連絡協議会を結成しました。

金正日総書記は、金日成主席が金正日総書記を育てたように、金正恩総書記を信頼しチュチェ革命偉業の後継者として育てていきました。金正日総書記は、次のように述べています。

「金正恩同志は、朝鮮革命がもっとも困難だった苦難の行軍の時期に人民と苦勞をともにし、多くの人生体験もしました。彼は人民とともに苦難と試練を経ながら、革命同志と人民にたいする信頼、チュチェの革命偉業の正当性にたいする信念をさらに深め、革命家にとって愛より偉大で貴重で力のあるものは信であるという哲理を胸に深くきざみました。おそらく、金正恩同志は苦難の行軍の時期を永遠に忘れないでしょう。」

「金正恩同志は指導者として身につけるべき特出した実力と風貌をそなえており、人民から全的な支持と信頼をうけています。」

私たちは、金正恩総書記の著作を日本の多くの人々が学べるように、金正恩著作集第1巻と第2巻を発行しました。また、金正淑女史生誕100周年にあたる2017年12月24日、金正恩著作研究会を全国組織として大阪で結成しました。

金日成主席は、自分の代では実現できなかったことは金正日総書記にゆだね、金正日総書記は金正恩総書記にゆだねて、最後までチュチェ革命偉業を完遂する道すじをつくってくださいました。

世界人民を愛し、世界の自主化のために生きる同志として

金日成主席は、朝鮮の革命に責任をもつだけでなく、世界の自主化と平和に強い関心を持ち、私たちにたいしても同志的な立場から貴重な助言をされました。

1977年9月25日、金日成主席は安井郁日朝社会科学者連帯委員会議長を团长とする日本チュチェ思想研究学術代表団に会見してくださいました。

金日成主席はピョンヤンでのチュチェ思想国際セミナーで、チュチェ思想に関する国際的常設機関を設置することが全会一致で決議されたことと関連して、いま、世界の人たちがチュチェ思想を要求している、世界の人民は自主的にすすまなければならないし、自主性にもとづいて団結しなければならない、と述べました。

金日成主席の助言をうけ、安井郁教授を中心とした代表団は帰国後すぐにチュチェ思想国際研究所の設立のための活動に着手しました。

1978年4月9日、世界10か国から約800名のチュチェ思想研究者が東京に集い、チュチェ思想国際研究所が設立されました。世界人民は自国の革命と建設をまっすぐに推し進めることができる思想的組織的担保を手に入れました。

金日成主席はたたかひの最初から自国の革命を自国人民に依拠して自国の実情に応じておこなっていくという自主的な立場、方法を確立していました。

1990年9月17日に金日成主席が私を接見してくださった際、主席は私に次のように話してくれました。

“1920年代の中頃、コミンテルンが私にソ連の共産大学への留学をすすめたことがあります。当時、朝鮮の共産主義者の間には、多くの派閥があり、派閥の指導者のほとんどがコミンテルンに呼ばれて共産大学に留学しました。私が留学することを同志たちはたいへん喜び、見送りの準備までしてくれました。しかし、私は留学をすすめたことには感謝するがソ連で学ぶことはしないと断りました。

私はそのとき、書物を通して学習することは朝鮮においてもできる、他国の革命の経験を学ぶことも大事なことだが、それはいずれ都合のよい時間をとっておこなえばよい、私たちは朝鮮で革命をおこなうのだから、朝鮮革命の方法は革命闘争をおこないながら朝鮮人民から学ぶべきだと考えました。

私はその時以来、一貫して朝鮮革命は朝鮮人民から学ぶという立場を堅持してきました。派閥の指導者たちはソ連に留学して帰ってきましたが、帰った後も人民大衆のなかに深く入ろうとせず、派閥争いをくり返していました。私は彼らの姿をみて、これはほんとうの革命ではないと見え、朝鮮の革命家としての自主的立場に立って、自国人民に依拠して革命をおこなうというチュチェ思想をいっそう強く打ち立てるようになりました。”

私は金日成主席の教えを胸に、日本のたたかひは徹底して日本人民に依拠し、日本人民の思想感情にあった方法でおしすすめていくことを決意しました。

金日成主席は朝鮮が植民地下にあったときから、朝鮮で社会主義共産主義を建設し、世界で革命を勝利させていくことについて大きな関心をもっていました。

1987年1月19日に、金日成主席の接見を受けたとき、主席は私に次のように話されました。

“共産主義社会が何百年かかっても実現できないという人がいるし、数年でできるという人もいます。何百年かかっても共産主義が実現できないなら、革命をおこなう必要はないでしょう。朝鮮では、分断された状況下にあっても、北半部で社会主義の完全勝利を実現させようと考えています。”

“そのためには、まず無階級社会をつくって、農民と労働者階級の差をなくし、共産主義的施策を実施していかなければなりません。共産主義社会を築くうえで、資本家を思想的に改造するまでには手間がかかるでしょうが、辛抱強く活動して彼らも共産主義社会まで共に連れて行きましょう。”

金日成主席はたとえどのような困難があっても、人民のためによいことであれば必ず成し遂げようと、大きな志をもって生きた方でした。

家族の心に深く刻まれた金日成主席の愛と信頼

金日成主席の教えと愛は、私の家族の心にも深く刻まれました。金日成主席は1993年4月2日、私の家族を招待し、暖かい配慮を示してくださいました。金日成主席は子どもたちのために、テーブルいっぱいにお菓子やさまざまな物を並べて待っておられました。

金日成主席は、子どもたちに“毎年朝鮮に来てください。今度来たときは、私が白頭山や妙香山、金剛山にも案内しましょう”と話してくれました。

子どもたちはお礼に金日成主席のために自分たちでつくった歌をうたいました。緊張のあまり上手にうたえなかったにもかかわらず、金日成主席は喜んで拍手をしてくださいました。

金日成主席は惜しくも家族とともに接見した翌年亡くなりましたが、金日成主席の愛と信頼は私たちの心に深く刻まれ、いつまでも消えることはないでしょう。

その後、金日成主席が実現できなかった革命偉業は、金正日総書記に継承され、いま、金正恩総書記によって、朝鮮は社会主義の完全な勝利へ向かい、さらに共産主義を建設する段階へと発展しています。

金日成主席の思想と偉業は金正恩総書記のなかに生きており、金日成主席はいつまでも自主時代の革命の太陽として燦然と輝いています。

私は、金日成主席のことを思い起こす度に、金日成主席から受けた深い愛と信頼を日本や世界で花咲かせるために人民とともに歩み続けていく決意を新たにしています。